十島村教育委員会だより　令和２年４月号

心わかかーカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

４月‥コロナウィルス感染症への警戒

教育長　有村　孝一

村では，学校を3月３日から3月 25 日までを休校とし，学校の大事な儀式である卒業式は規模を大幅に縮小し，来賓の方にも出席を遠慮していただいて行いました。村民の皆様方のご協力もあり簡素な中にも厳かに実施することができました。
また，４月に入りまして，始業式や入学式も卒業式同様に開催されまして，新年度が滑り出したところでした。

一方で，県外からやってきました山海留学生については，コロナウィルス感染症拡大防止にために４月３日から２週間鹿児島市内に留め置くこととしました。また，教員の異動により県外から赴任する先生方についても，鹿児島県に入った時点から２週間を過ぎるまで自宅待機としたところです。

いよいよみんな揃って，新学期開始というところで，４月７日に国は，東京都や神奈川県などの7都府県に緊急事態宣言を発出しました。同日村においても「十島村新型コロナウイルス感染防止対策本部」を立ち上げています。総理は会見の中で，７割から８割の接触の削減を求めています。このことは，相当の努力をしないと達成できない数字です。役場においても，職員の身を守るという観点から，引いては村民の皆さんの安全のために，危機意識を持ち，役場玄関口での来訪者への対応など，削減に努めているところです。

また，学校においても県知事の要請を受けて，４月 22 日から５月６日まで休校とすることにいたしました。これまで，鹿児島県においては 10 人の感染者が出ています。（４月 23 日現在）これらはいずれも，県外から来た人や帰ってきた人たちからの感染です。これからやってきます大型連休に向けて，絶対に村内に持ち込ませないようにしなくてはなりません。

始まっていきなりの休校ですが，前回同様に学校には，児童生徒が自宅で行う学習課題を配布したり，定期的に家庭訪問を行ったりして，規則正しい生活を送らせるとともに児童生徒の健康状態の管理にも努めてもらっています。

学校給食につきましては，これまで通りその時間だけ登校させて，小グループで給食をとり，図書の本を借りたりして，その後下校させることにしています。
忘れてならないのが，「健康チェック表」を記入し，学校へ持ってくることです。教師も同様に行っています。お互いが相手の身の安全を守り，一刻も早く終息することを皆さんとともに祈りたいと思います。

令和元年度　後期鹿児島県ランキング
「体力アップ・チャレンジかごしま」

○　特別賞　悪石島小学校（４年連続受賞）
○　小学校
　２年生‥‥「馬跳びピョンピョンピョン」
　　８位：宝島
　４年生‥‥「馬跳びピョンピョンピョン」
　　１０位：悪石島
　　「２人でさっさっ」　８位：悪石島
　６年生‥‥「レッツ短縄跳び」　１位：悪石島
　　５位：口之島
　　「一輪車でＧＯ！」　６位：悪石島
　　「馬跳びピョンピョンピョン」
　　１位：悪石島
　　「２人でさっさっ」　３位：悪石島
○　中学校
　３年生‥‥「馬跳びピョンピョンピョン」
　　５位：悪石島
　　「２人でさっさっ」　９位：悪石島

どの学校でも年間をとおして，体力作りに取り組んでいます。記録等は鹿児島県教育委員会のＨＰに掲載されています。

子供のうた
（三／十　南日本新聞掲載）

やればできる
私にはなかった
支えとなる柱がなかった
でも私は
柱をつくることができた
一つの言葉で
つくることができた
やればできる
母の言葉
友達ができたのだから
自分もできる
私は英語の検定に
挑戦する
この言葉を支えにして
（悪石島小六年　片野田　奏）
学年は投稿時

【シリーズ　新聞に投稿】（学年は投稿時）
（令和２年３月１４日南日本新聞「若い目」掲載）
小宝島小2年　三浦　和奏

そつぎょうおめでとう

「３月３日から学校はお休みになります」。ニュースで聞いていましたが、遠いばしょの話だと思っていました。友だちと遊べなくなるし、家でひとりぼっちになる。お姉さんのようにしたっている６年生のえくさんに会えないなんて、すごくさみしい気もちになりました。

学校はお休みですが、きゅう食だけはあります。三〇分間のみじかい時間です。えくさんと話ができるのは、この時間と学校への行き帰りの時間だけです。この時間はとっても楽しみです。ドラマの話をしたり本の話をしたりします。

もうすぐそつぎょうしきです。えくさんは東きょうに帰ります。しきのれんしゅうはできないけど、たくさんの気もちをこめて「えくさん、そつぎょうおめでとう。いろいろと、ありがとう」ということばをおくってあげたいです。

（令和２年３月１９日　南日本新聞「ひろば」掲載）
寂しさと希望15歳島立ちの春　　藤谷　敬子

新型コロナウイルスの影響で卒業式が中止になる中、中之島小中学校では規模を縮小した形で卒業式が行われた。島の中学３年生にとって卒業式は、十五年間育ててもらった親元や地域を離れる島立ちの節目。自立への一歩だ。

卒業式を実施してくれた学校には、感謝の気持ちでいっぱいだ。今春、長女は初めて親元を離れ、本土の高校へと進学していく。数十年前、私自身がそうであったように、長女は新しい生活への不安と喜びに満ちている。

私の親も子供の成長を感じながらも、十五歳で手元から離す心配や寂しさの中で送り出してくれたのだろう。自分が親となった今、その思いに触れ感謝しかない。

親として巣立つ娘に思うのは、今までお世話になった地域の方や、先生方に感謝の気持ちを忘れずにいてほしい。そして、新しい生活で出会う人々に対しても優しく、感謝できる人でいてほしいということだ。

十五の春。島は、寂しさと希望に満ちた季節だ。

（令和２年３月２９日南日本新聞「若い目」掲載）
小宝島小5年　岩下　和矢

疲れたけど成長した

とにかく疲れた１年でした。たくさんあった行事をていねいにがんばったからです。特にがんばったのは三つです。

一つは水泳です。平泳ぎの練習をがんばりました。おかげで５００メートル遠泳にチャレンジでき、タイムを縮めることができました。

二つ目は運動会です。全校児童９人なので、二十一ある種目でたくさんの競技に参加しなければなりません。応えん合戦やソーラン節は声出しも大変です。練習で失敗を減らすことができました。

三つ目は持久走大会です。島一周道路約２キロを走ります。練習では、ほとんど歩いているようになりました。気合で自己記録を２分も縮めることができました。

この１年を振り返ると、疲れることばかりでした。疲れた分、ぼくの成長を助けたと思います。６年生でも努力を続けます。

シリーズ・・・十島村で学ぶ

宝島中学校　３年　寺田　花南

私は，中学１年生の９月から宝島に山海留学生として来ました。初めて宝島に来たとき，ここでしっかりやっていけるか不安でした。しかし，学校では先生方や児童・生徒のみんながとても良い人たちで，私は「この島にやってきて良かった」と思いました。

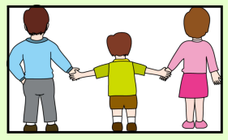
これまでで，一番印象に残っているのは体育の授業でウインドサーフィンをしたことです。島民の方に教えてもらって，港で体験しました。初めての体験でしたが，思っていたより上手にできて嬉しかったです。ぜひ，またやりたいと思いました。今年の夏も楽しみです。

私は，４月に受験生になりました。この島での生活も残り一年。そのため，私は頑張りたいことが二つあります。第一は，学校や島での行事です。一つ一つのことに全力で精一杯取り組みたいです。第二は，勉強です。高校受験に備えて，模試などを積極的に受ける必要があると思います。「どうしてあのときしなかったんだ」と後悔しないようにしたいです。そして，一年後の私が「宝島に来て本当に良かった」とさらに思えるよう，残りの一年を大切に過ごしていきたいです。

【小宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭　坂本　剛

小宝島小・中学校に赴任して１年間過ぎました。妻と子ども２人の４人で小宝島に来ました。病院が無い，店が無い，ガソリンスタンドが無いと，今までの生活とは全く異なる環境での生活に不安を覚えましたが，実際に暮らしてみると特に不自由なく暮らすことができています。今までの生活では，長距離通勤ということもあり，子どもが寝ている時間に家を出て，帰ってきたらもう寝ているということもありましたが，ここでの生活では，毎朝一緒に朝ご飯を食べ，夕方に一緒に遊べる時間も取れることもあり，家族で過ごせる時間が増え，とても充実させることができました。

自分の仕事に関しても，初めてのことだらけでした。専門教科以外の保体の指導では，初めての一輪車指導に始まり，水泳指導やダンス指導や剣道指導など非常に苦労はしましたが，子どもたちとともに楽しく授業を行うことができました。また，極小規模校という利点を活かし，個別指導を充実して行うことができました。今までであれば，個に合った指導を行うにも限度があったのですが，十島ではそれが可能なので，自分自身の指導力向上にもつなげることができました。これからも十島の強みを活かして，指導に励んでいきたいです。



『教職員仲間であるあなた』への
私からのメッセージ

島と島とで地理的には離れてはいますが，子どもたちはもちろん，教職員も『十島は１つ』の精神で心をつないで，お互いに助け合いながら本年度もみんなでがんばっていきましょう。